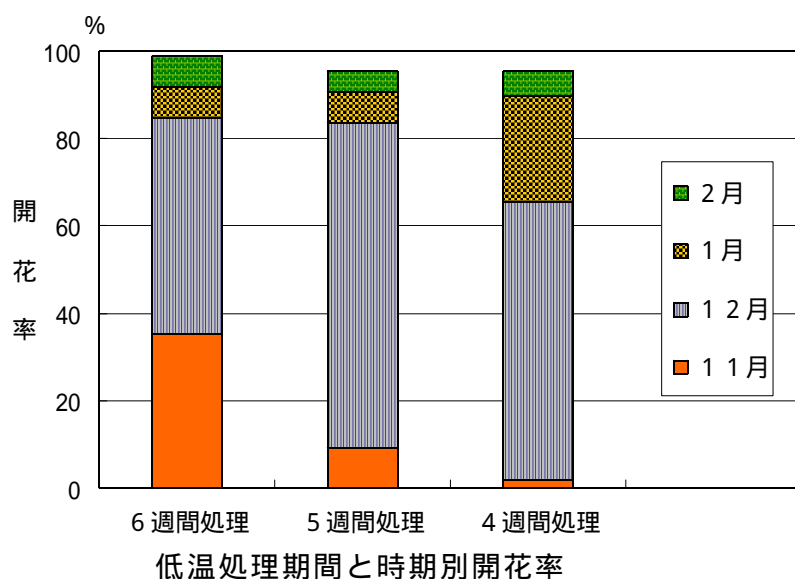


冬花壇の新生「ランンキュラス」

ランンキュラスは、主に早春の鉢花として流通していますが、比較的寒さに強い植物なので、秋から冬にかけて屋外でも楽しむことができます。

そこで、秋植え花壇素材として開花苗を生産するための、球根の低温処理方法を検討しました。

その結果、8月中旬から5℃の温度で6週間の低温処理を行い、9月下旬に定植すると11月中下旬から開花が可能でした。その株を花壇に植え付けると1株から多数の花が連続して咲き、春先までの長期間観賞することができました。また一つ、冬の花壇を彩る草花が生まれました。



球根を5℃で6週間低温処理すると11月に開花が始まる株の割合（グラフの赤）が多くなります。



1月25日の開花の様子
(植え付け2週間後)

中央部の黄色と桃色の花
(矢印)がランンキュラス

1月上旬に植え付けたランンキュラスは、寄せ植えたハボタンが抽台し、縁取りのクマガサが満開の時期（4月上旬）まで、連続して開花します。



4月2日の開花の様子